

学校規模の適正化について

教育委員会学校規模適正化室

①各中学校区の適正配置の方向性について

○第一中学校区

交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に、施設一体型の小中一貫校を設置することとします。

○第二中学校区

各校とも今後も適正な学校規模を維持する見込みとなっていることから、当面の間、2小1中の現状の接続関係を維持しつつ、必要な施設整備を行っていくこととします。

○第三中学校区

星田駅北地域の住宅開発がさらに確かなものとなった時点で、速やかに再度、学校区とあわせて将来に向けた望ましい学校適正配置を検討することとします。

○第四中学校区

星田駅北地域の住宅開発がさらに確かなものとなった時点で、速やかに再度、学校区とあわせて将来に向けた望ましい学校適正配置を検討することとします。



②第一中学校区の適正配置について（魅力ある学校づくりについて）

○第一中学校区魅力ある学校づくり協議会

構成：50名

P T A協議会8名、地区16名、学校評議員3名、子ども会育成連絡協議会1名、青少年指導員会1名、校区福祉委員会2名、民生委員主任児童委員2名、地域事業団体2名、生涯学習団体3名、市民公募12名

内容：学校統合や施設整備等にかかる様々な課題について、対応策の検討や意見交換等を行う。

○今後のスケジュール

- ・新しい学校の基本的なコンセプトや構想の検討、基本方針・基本計画の策定（概ね1年間）

↓

- ・基本計画に基づいて行う、基本設計（概ね1年間）

↓

- ・基本設計に基づいて行う、実施設計（概ね1年間）

↓

- ・施工（解体、開発造成、新校舎建築）（概ね3年間）

○今後事業を進めていく上での課題

- ・工事期間中の学校の在り方および開校時の学校の形態について
- ・グラウンドの確保、プールの設置の有無等
- ・事業（整備）手法について（従来方式、DB、P F I等）

③第二中学校区の適正配置について

- ・2小1中を当面維持することから、今後全中学校区の適正配置の方向性が定まれば、老朽化状況からみた保全優先度を基に施設整備の時期を検討。

④第三、第四中学校区の適正配置について

○星田駅北地域の進捗

- ・計画全体の配置については、今年度夏以降に明確となる予定。
- ・1期工事の換地の引渡しが、来年度夏頃の予定。

※来年度1期工事の換地前までには、星田駅北地域の児童・生徒の学校区を定める必要がある。

○第三、第四中学校区の今後の適正配置の進め方

- ・学校教育審議会へ諮問

星田駅北地域の児童・生徒の学校区の検討

(令和2年度当初頃に中間答申)



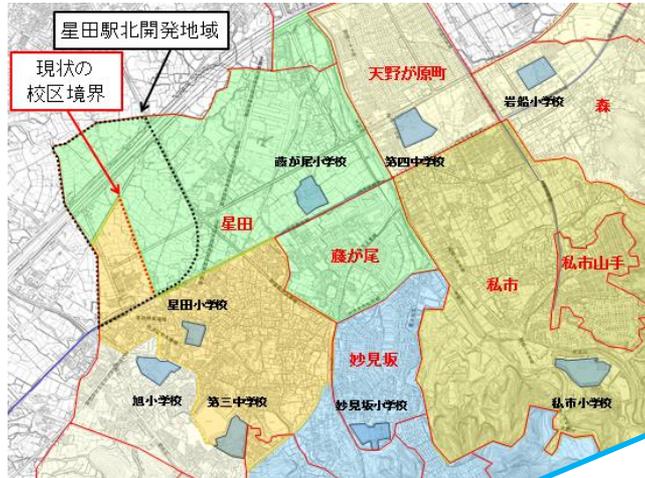
第三中学校区及び第四中学校区の適正配置の方向性の検討

(星田駅北地域の学校区を踏まえ、再度配置案を検討)

○適正配置を検討する上での課題

- ・星田駅北地域の学校区は現在、星田北6、8、9丁目が藤が尾小学校区、星田北7丁目が星田小学校区であるが、それぞれの校区で多くの児童・生徒数の増加が見込まれており、施設面での受け入れも考慮し検討が必要である。旭小学校も受け入れの対象として検討する。
- ・現時点での児童生徒数の将来推計では、大規模な開発を加味しない場合、星田小学校・旭小学校・妙見坂小学校・藤が尾小学校・岩船小学校が将来小規模校となる推計予測となっている。
- ・三中、四中校区は、3小1中の中学校区のため配置案が複雑である。

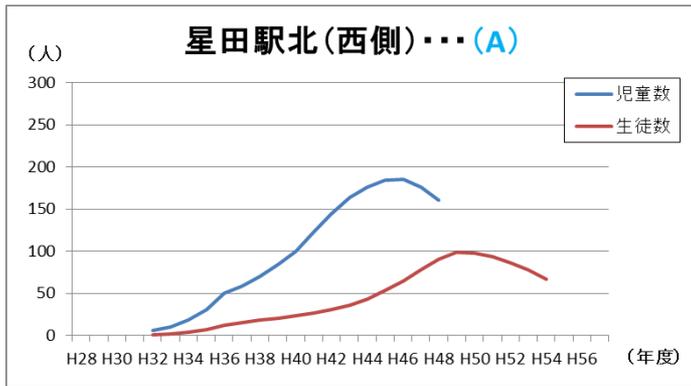
住宅開発地区と現況地区・校区図



星田駅北地区の土地利用計画図

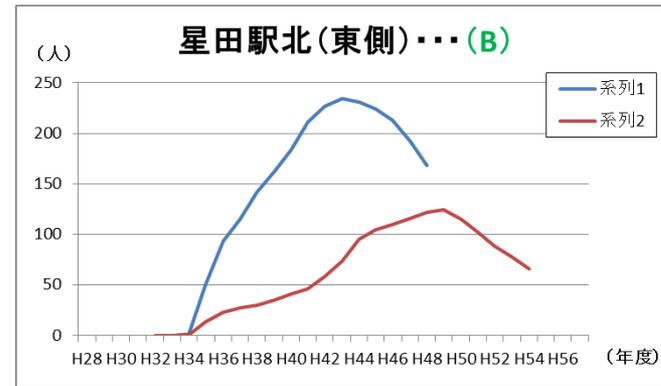


都市計画道路西側の児童生徒数推計



住宅開発見込数…戸建住宅230戸

都市計画道路東側の児童生徒数推計



住宅開発見込数…戸建住宅120戸
共同住宅190戸 (シニア向け除く)

(平成31年2月「交野市学校規模適正化基本計画」より)